授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1558 号

Serum brain-derived neurotrophic factor concentrations and personality trait in patients with major depression

(うつ病患者における BDNF 血中濃度と気質・性格特性について)

野本　宏（のもと　ひろし）

博士（医学）

論文内容の要旨

神経成長因子のひとつである脳由来神経栄養因子（Brain-derived neurotrophic factor：BDNF）はうつ病患者の病相期にその血中濃度が低下することが知られている。近年、BDNF 濃度とうつ病親和性性格傾向の関係について報告がされているが、その対象は健常者に限られる。今回我々は、うつ病患者を対象とし、気質・性格評価尺度のひとつである Temperament and Character Inventory（TCI）を用いて、BDNF 濃度と気質・性格特性について考察した。DSM-Ⅳ（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders）の大うつ病性障害の基準を満たした入院患者 123 例を対象に，入院翌日の早朝空腹時に血清 BDNF 濃度を測定した。性格傾向は 125 問形式の TCI を用いて評価した。統計は血清 BDNF 濃度を従属変数とした重回帰分析を用いた。その結果，重回帰分析では TCI における自己志向性（Self-Directedness : SD）と血清 BDNF 濃度との間に有意な負の関連が認められ(β=-0.29, p=0.038)，SD の低いうつ病患者では血清 BDNF 濃度が低下しない傾向にあることが示された。SD には、自己責任・目的指向・臨機応変・自己受容・自己啓発など、うつ病発症を防ぐ心理的機能が含まれる。SD の低さは性格の未熟さを表すとされており，SD が低い患者群は、BDNF 濃度が低下するほどの侵襲に晒される前に、日々の些細なストレスや望まざる出来事などで、容易にうつ状態に陥るのかもしれない。